

研究計画の概要

- 大規模通信混雑時に起こる爆発的な通信要求に対応するべく、**離れた拠点の通信処理資源を有機的に連携させ活用**する「通信処理機能のネットワーク化技術」を研究開発
- 混雑が発生している拠点の通信処理能力を3倍以上にすることを目標とする。
音声通話に換算するなら、「9の発呼に1呼から、3の発呼に1呼以上」へ

離れた拠点間での有機的連携制御
(通信処理機能のネットワーク化)

離れた地域の
通信処理資源を
融通。



離れた拠点接の通信処理資源を
混雑している拠点に融通する。

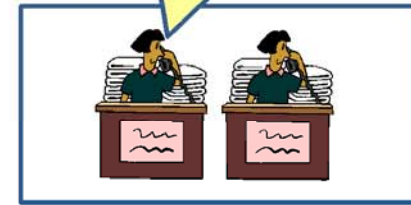
特徴

受付窓口が混雑して
いるから応援を
お願いします。



混雑している拠点

余裕があるので、
こちらにまわしてく
ださい。



離れた拠点

- ・有機的連携を実現しつつ、通信インフラとして求められる通信品質や信頼性の諸条件を満たす技術の研究開発
- ・大規模災害やスマートフォンの普及により発生する通信混雑の事例を分析
- ・通信混雑状況を模擬する実証実験環境により技術評価を実施